

要旨—中国語と韓国語が融和した韓国語、日本語と韓国語が融和した韓国語で、漢字の音訓を借りて韓国語を記すのに用いた表記法を吏読と言います。この方法で既に対馬・一大・末羅・伊都・倭人・卑弥弓呼・卑弥呼・ヤマト・地図を述べました。

十 奴国の語源はやから・やつめ・やつこの事です

二つ目の方位の基準点は伊都国です。伊都国から「東南」の方角に奴国があり、伊都国から「東」の方角に不彌国があると記録されています。

奴国の奴は韓国語でノム (nom) と発音します。日本語では「やつこ・やつめ・やから」という意味で用いています。ノムは子音で終わっているのので、日本語では母音の a 音が付いてノマ (noma) となります。福岡の南区に野間という地名があります。ここが奴国の市街地です。

奴国は漢の武帝から金印をもらっていますので、国づくりに関しては他国と違って、いろんなことに力を入れている事が分かるのです。多くの渡来人や弥生人・縄文人が通る道筋には木の札・立て札が立っていて、その頃に必要な情報や規則が書かれていたようです。手形のようなのも有ったはずです。また、要所には関所のような物もあったでしょう。渡来人や弥生人の半數程は吏読字が読めたのではないかと考えられます。

奴国の官は兕馬觚です。觚はコ・クと発音し、意味は「文字をしるした方形の木製の札。のり。きまり。」です。類似の語に矩があります。

馬は韓国語で言葉のことをマル (mal) と発音しますので、吏読字で「馬」と表現したものです。

兕はジ・シと発音します。これと同じ発音に「字」があります。兕の意味は「一本の角がある、野牛に似た動物」ですから、吏読字の「馬」に合わせて付けられた吏読字です。本意は「文字・言葉の規則」を司る官と言うこととなります。

言葉の官は他にも都市牛利があります。都は「多くのものを一つに集めて統率する。また、その役目。」という意味で、市は「大勢の人が物品の売買に集まる所。」の意味です。牛利の牛は韓国語でソ (so) と発音しますので、牛利はソリ (sori) と発音します。この語は「聴覚に捕らえられる物理的音声。言葉・話。歌・音楽」の意味です。また、ソリチダ (soritida) という語があり「叫ぶ・大声を張り上げる・わめく」という意味があります。(チダ) は接尾辞です。拡声器が無い時代ですから、繁華街や市場などの場所で大勢の人に情報を提供するには大声を出して伝達するしかなかったのです。

また、市に関して「国々有市交易有無使大倭監之」とあります。倭はウエ (we) と発音します。意味は「なぜ・どうして・何故に、疑問を表す語」です。

使うはツダ (ssda) と発音します。意味は三種類あり、一つは「使用する。使役する。働かす」で、二つ目は「苦い。気色が悪い」で、三つめは「(文字を) 書く・しるす。(文章を) 書く・作る。(本を) 書く・著わす」です。ツダの発音と意味を吏読字で表現したのが「使大」ですから、「使大倭」は「何故だろう、どうしてだか疑問である事項を文字で書きしるし、文章を書く」と言う意味である事が分かるのです。

「監之」とは「有無の交易で不明な点や疑問に思ったことを文字で記録し、見張りをして改善策を考える」と言う意味になります。

奴国は、金印をもらったがために多くの決まり事を作り実行して国民を導いたのです。しかし、渡来人が津波のように押し寄せてくる場所に位置している奴国は、筑豊や筑後方面への移動にはどうしても通過しなければならない場所でもありますから、関所破りや規則を知らずに争いごとが多く起こったと思われる。

語頭にノム (nom) の付く韓国語を探してみました。

ノムタ (nomta) は「超過する。経過する。跳び越える。」の意味です。

ノムギダ (nomgida) は「(高いところを) 超えさせる。倒す。通り抜ける。逃れる。(権利や責任などを他人に) 譲る・渡す。」です。

ノモガタ (nomogata) は「超えていく。横に倒れる。(太陽や月が) 沈む。所有権が人手に渡る。」の意味です。

ノモトリダ (nomotwrida) の意味は「打ち倒す。くつがえす。」です。

ノモオダ (nomooda) は「超えて来る。(権利や責任などが) 渡ってくる。吐き気を催す。」の意味です。

ノモジダ (nomodgida) は「倒れる。転ぶ。敗れる。倒産する。」の意味です。

ノムチダ (nomtsida) は「あふれる。余る。」の意味なのです。

これらの事から、奴国は「近隣諸国や渡来人たちによって倒された国である。」と考えられるのです。

奴国は「其余旁国遠絶不可得詳」という部分の最後にもあります。奴国の奴の意味は「やから・やつめ」でありますから、ヤツメを吏読字で「八女」と表記することもできます。

十一 不彌国の語源は限の事です

不彌国は、第二基準点の伊都国から東の方向です。韓国語でフミジダ（f u m i j i d a）という語があり、その語頭音のフミの発音を「不彌」と表現したものです。意味は「奥まってひっそりしている。入り江が深い・川筋や山裾が奥深く曲がりこんでいる」という意味です。

伊都国の前原付近から東の方向の「入り江が深い所」とは博多湾です。その博多湾には那珂川・御笠川・須恵川・多々良川が流れこんでいます。これが「川筋や山裾が奥深く曲がりこんでいる」の意味で「隈」という語になります。御笠川の右岸側に月隈・金の隈という地名があり、須恵川の右岸には大隈の地名があります。この地域が不彌国です。

不彌国は奴国に接続した国ですから、奴国の規則や制度を有効に活用しないと渡来人や弥生人が渡河する際に混乱が生じる事は容易に想像出来ます。

この国の官は多模と言います。模の意味は「形を示すひながた。手本。のつとる。原型をまねる。なする。手探りできがす」ですから、多模の仕事は「奴国の国政・制度を多く収集してまねる」ということになります。

副官は卑奴母離です。卑は、卑弥弓呼で述べたように「稀」の事で、意味は「まれ。ごく少ない。かすか。」です。奴の発音は中国語・韓国語で「ド・ヌ・ナ・ラ・ノ」で、母の発音は「ブ・ム」ですから奴母は「ナム・ノム」と発音できます。韓国語にナムラダ（n a m u r a d a）という語があり（ラダは接尾辞）、意味は「しかる、とがめる、戒める」です。日本語に「のむ」という語があります。意味は「祈（の）む。頭をたれていの（祈）る。」です。「祈」はまた「のみ」とも発音します。

『風土記』（吉野裕訳・平凡社ライブラリー）には「昔、纏向の日代の宮に天の下を治めになった天皇が行幸された時、この里に土蜘蛛が三人あった。（兄の名は大白、次は中白、弟は小白。）この人たちは堡を作って隠れていて、降伏することを承知しなかった。そのとき侍臣の紀直らの祖釋日子を派遣して誅滅させようとした。ここにおいて大白ら三人はひたすら叩頭（のみ）して（頭を地につけて）自分たちの罪過を詫び、ともに再び生きられるようにと乞い願った。」とあります。又、中国にも「三拝九叩」という語が在り、意味は「三度拝し、九度頭を地につけて最敬礼をする。」というのがあります。

祈は（のみ・のむ・なむ）と発音しますので吏読字で「奴母」と表現したものです。卑奴母離の離（り）は、祈を「いのり」と発音した時の接尾辞です。これらのことから、卑奴母離とは「稀な祈禱師」ということになるのです。

十二 投馬国は放り投げられた村の事です

奴国は、漢から金印をもらっていたので倭国を管理していました。狗奴国に

男王が居ましたが、女王国には属していないので、奴国の管轄外でした。邪馬壹国はシャマハン国（シャーマン王国）ですから、卑弥呼が各国の祈禱師（卑奴母離）を管理していました。伊都国は渡来人を味方にして奴国に敵対していました。伊都国の目的は、奴国の国土を自由に通過して筑豊・筑後方面に渡来人を定住させることにあったのです。

韓国語で「投げる」をトウンジダ（toudgida）と発音します（ジダは接尾辞）。意味は「なげる・ほうる・捨てる・とびこむ」です。「馬」は韓国語で「村」を意味するマウルの音を吏読字で表現したものです。投馬国とは「奴国の管理から放り投げられた村・捨てられた村」ということになります。

金印を持っていた奴国は、金印の威光により対馬・一大・伊都・不彌などの国々を管理していましたが、ノムギダという国名の通り「超えさせる。通り抜ける。（権利や責任などを他人に）譲る。渡す」と「倒れた国」になったのです。

渡来人や対馬国・一大国などからの弥生人は、伊都国を經由して奴国を通り抜けて、筑後・佐賀方面へ移動して新たな集落を作り定住し始めたのです。先学の説によりますと「ドルメンは韓国から渡来し九州北部の室見川から西部のみに見られたが、倭の大乱後は福岡平野・筑後平野・佐賀平野方面に広がって認められる。」とあります。

これらの地域には縄文人と僅かな弥生人が居たと思われます。多くの渡来人たちは筑豊・瀬戸内の方面の東へ移動したようです。官は彌彌で副官は彌彌那利と言ひ、彌彌は「ビビ」と発音しますので「微微」のことになります。意味は「かすかで取るに足らない。かすかなさま。ささやかなさま」です。「那利」は韓国語で「乃」の吏読字で「村」を意味する言葉でナリと発音します。

新たな渡来人と縄文人が融合し、あるいは敵対しながら集落を形成していきました。これが「其余旁国遠絶不可得詳」の国々です。これらの国々や対馬国・一大国・不彌国・倒れた奴国を含めて伊都国王は「皆を統べて女王国に属す」となったのです。

卑弥呼は吏読字で「稀微豪」の事ですから、意味は「まれで、はっきり見えないが、財産や勢力のある率いる人」となります。「景初二年六月、倭女王遣大夫難升米等詣郡、求詣天子朝献」とありますから、九州北部の倭人たちは女王を中心とした倭人国の人たちになったのです。でも狗奴国は「女王に属せず」とありますので、後年「卑弥呼以死・・・更立男王、國中不服、更相誅殺、当時殺千余人」となるのです。

投馬国は対馬国を含みますので「水行二十日で投馬国の陸地（末羅国）に着く」と記録してあるのです。邪馬壹国の「水行十日」は基準点の一大国からの距離であり、女王の拠所まではさらに「陸行一月」かかるという意味になります。

狗古智卑狗の古智（コチ）は「宗主の拠所」の意味です。他にも古次（クチ）・串（コチ）・只（クチ）と韓国の古地名にはあります。

久留米に櫛原という地名があります。櫛は串と同音ですから「宗主の拠所」で、原は「伐」ですから「国」のことを指します。「櫛原」とは「宗主の拠所の国」と言うこととなります。『字訓』（白川静著）には、串も櫛も「縦に地に刺して立てることは、そこに神を迎えいつくことを意味した。呪飾としての意味をもつものであった。」とありますので、狗奴国の祈禱師（シャーマン）もこの地に堂を建てていたとおもわれます。ここが狗奴国の所在地です。

鬼奴国の鬼は韓国語で「クイ」と発音し、同音の語に「耳」がありますので、高良神社の東方に「耳納」の地名があります。この地が鬼奴国です。また姐奴国の姐は「姉」という意味ですので、佐賀市の東方に「姉川」という地名があります。この地が姐奴国です。

投馬国は、奴国の倒壊により「放り投げられた国々」であります。また復興の国々でもあるのです。

十三 壺与の語源はチームリーダーの事です

卑弥呼の死後に「復立卑弥呼宗女壺与年十三為王」とあります。卑弥呼は祈禱師（シャーマン王）でした。宗女の宗は「御霊をしずめまつる所。祖に次いで有徳の人。」の意味です。壺与の壺は「最もすぐれたこと。第一。最上。最善。」の意味であり、与は「くみする。組。仲間。たくさんの人々の中で、いっしょに物事をする人々や同じ性質を持つ人々の集まり。」の意味です。これらの意味を文中に挿入すると「卑弥呼の御霊をしずめまつる所の女仲間の中で、最も優れた有徳な年十三を立てて王と為す」と読むことが出来るのです。「壺与」とは「組頭・級長・チームリーダー」の事なのです。

壺は他にも「掖邪狗等壺拝率善中郎将印綬」で「壺拝」と使われています。壺の意味は「最もすぐれた・首位・最上」で、拝の意味は「ていねいにお辞儀をする」です。中国に「三拝九叩」という語があり「三度拝し、九度頭を地につけて最敬礼をする」と云う意味ですから、これに似たようなお辞儀が「壺拝」なのです。

邪馬壹は中国語でシャマイチ・ジャマイチ・ヤマイチと発音し、韓国語ではサマハンと発音します。シャマはシャーマンの事で、サマはサマンの事です。イチは「首位」の事で、ハンは「王」の事ですから、意味は「祈禱師（シャーマン・サマン）王」です。邪馬壹国は「祈禱師（シャーマン）王国」の事なのです。

十四 鬼道の語源は銅鏡と隠（こもる）の事です。

卑弥呼はシャーマンです。その得意技は「事鬼道、能惑衆」とあります。事とは「仕える。奉仕する。献身的に国家・社会のためにつくすこと。仕業」の意味です。鬼は韓国語でクイ（k u i）と発音します。これは「貴」と同音ですからその意味「尊い。珍しい。まれである。高価である」が鬼の意味になります。道は韓国語でト（t o）、ド（d o）と発音します。これと同じ発音に「銅」があります。銅はトング（t o n g）と発音しますが、グは聞こえず、喉の奥で「ン」という感じですから道のト（t o）と同音になるのです。銅とは「銅鏡」の事です。倭人伝には景初二年十二月に「銅鏡百枚」、正始元年にも「鏡」を賜っていることが記録してあります。「事鬼道」とは「尊い銅鏡で献身的に国家・社会のためにつくす」と言う意味になるのです。

鬼は、訓では「隠」と書いても「おに」と読みます。隠は「こもる・こもり」とも言います。「籠もる・隠もり」の意味は「すきまなくまわりを囲まれている中に入って外に出ない。ひそむ。ひきこもる。城中にいて防ぎ守る。寺社に宿泊して祈願する。隠れてあらわれないこと」です。

前述のように邪馬壹国は、筑後川と宝満川の合流する地域に「小森野」という地名がある所です。卑弥呼は「自為王以来、少有見者、以婢千人自侍、唯有男子一人、給飲食、伝辞出入居処」とありますので、「籠り・隠もり」の毎日で献身的に社会のために尽くしていたのです。「籠り・隠もり」のその場所を「籠り野」と言うようになり、後世「小森野」の地名として残ったものと考えられるのです。

小森野の東側に「宮の陣」という地名があります。宮の意味は「特別の神を祀る神社。皇居。禁裏。御所。皇族の御殿。仏堂。」です。陣の意味は「兵士を並べ隊伍を整えること。軍勢の集まって居る所。禁中の衛士の詰所。一群の集団」です。倭人伝には「宮室・楼観・城柵嚴設、常有人持兵守衛」とありますので、まさに宮の陣なのです。

小森野と宮の陣は、南を筑後川、西を宝満川、東を大刀洗川によって区画されており、自然の要塞となっており、戦国時代の城の堀と同じです。この地域が邪馬壹国ですから、南にある筑後川を越えると男王の居る狗奴国となるのです。

前述のように、久留米の櫛原が「宗主の拠所」で、男王の卑弥弓呼は「稀微弓達人」を吏読字で表現したしたものです。高句麗語で朱蒙と言い、扶余語では卓琳莽阿（チュリルムオル）です。扶余国の都は「阿斯（アス）」と言い、「松」の意味ですから、中国・ハルピンの西に位置する「松原」です。阿斯達はアスデと言い、松山の意味です。宇土市に松山の地名があります。阿斯達と阿蘇山

は同音同意なのです。

狗奴国は菊池市であると言われていています。菊は韓国語でクク（k u k）と発音し「国」と同音です。池はモ（m o）と発音しますが、弁韓にあった古淳是国を吏読字で古寧加羅（コリンカラ）と言ったが誤伝されて、今では恭儉池（コンガルモ）と言われていています。菊池はククカラと発音して「王国」という意味になりますから、男王の拠所と言うことになります。阿蘇山も宇土も菊池も久留米も狗奴国の領域と言うことになります。

卑弥呼の宗女壺与は、やや時が過ぎてから東方の和泉へ移動しています。『記』『紀』の伝説に、三輪山の大神主神の祟りで疫病が流行した。この神の託宣があつて、大田田根子をして大神主神を祭らせたところ、「国家安らかに平らぎ」「国内ようやくにしずまる」にいたった。とあります。この巫女こそが壺与なのです。

十五 根子の語源は聖旨（コンス）の事です。

『日本書紀』に百済が倭国に贈ったという「七支刀」は石上神宮に現存しています。この刀には次のような銘文が刻まれています。「先世以来、未有此刀、百済王世子、奇生聖■故、為倭王旨造、伝示後世」とあり、この文中の聖■は「聖旨」であり「コンス」と発音します。

百済の近肖古王の近はコンと発音し聖の意味ですし、皇太子の近奇生（近仇首）の近もコンと発音し聖の意味です。高句麗語で子・世子の事をクス（k u s）と言いますので近仇首とは「聖世子」という意味になります。

韓国シャーマニズムの中心的職能者である巫堂ムーダン（m u d a n g）の神堂には巫神図が掲げられています。祭壇の最上段中央に「聖旨」という巫神図があるのです『シャーマニズム』（佐々木宏幹著 96 ページ）。

聖旨の旨には「天子の考え。意向」という意味がありますので、聖旨（コンス）の事を「神託や預言などの神語」と訳されています。「奇生聖旨故」は「奇生の神語ゆえに」と読みます。「為倭王旨造」は「倭王の心の向かう所の為に造る」と読むことができます。

七支刀の表面に、東晋の太和四年（369年）の日付が刻まれています。この「倭王旨」の事が『隋書』倭国伝に「開皇二十年（600年）、倭王姓阿每、字多利思北孤」と記録してあるのです。旨の意味は「うまい・あまい・味がよい」ですから「為倭王旨造」を参考にして「旨」を「阿每」と吏読字で表現したのです。字の多利思は「たつとし」と読み「尊とし」の事です。尊の意味は「立派で近寄りやすい」で、北の意味は「背を向けて逃げる」です。孤には「国王が自分を謙遜している言葉。私」という意味があります。隋の使者と倭王との直接会

話時に出た言葉を、通訳が王の名前として吏読字で表現したものなのです。

倭王の次に太子の名を「名太子為利歌彌多弗利」と記録してあります。利の意味は「するどい。よく切れる。激しい。すばやい。かしこい。さとることが早い。」です。歌彌は「かび」と発音し「加被」の事で、意味は「神仏が威力を加えて人々を助け守ること。加護」です。多弗利は「たふとし」と発音し「尊い・貴い」の事で、意味は「立派で、あるいは美しく近寄り難い。崇高である。神々しい。すぐれている。」の事ですから、利歌彌多弗利とは「さとることが早くて、神仏が力を加えて護っているように崇高である」と言うことになります。

先述のように、高句麗語で子・世子の事をクス（k u s）と言います。韓国語でクス（k u s u）と言えば「秣（まぐさ）・桶」の事ですから、「牛馬に秣を与えて養う家の出入り口」という意味で「厩戸」と吏読字で表現したものです。厩戸皇子とは「世子皇子」と言っている事になるのです。

聖旨も根子もコンスと発音し、神語（聖なる天子の考え。聖なる神の言葉）という意味です。

大田田根子の根子もコンスと発音します。「大」は達と同音で韓国語では「山」という意味になります。一大国の大も達と同音で山の意味で、一は初と同音ですから一大国とは壺岐の初山であると先述しました。「田田」はタッタ（t a t t a）と発音し、韓国語で「戸を閉める。蓋をする。閉鎖する」という意味の語があります。大田田根子とは「山を閉鎖するという神語（天子の考え。）」と言う意味になるのです。三輪山入山登山はずっと禁止されており、極一部の人間だけが近年登れるようになったと言われていています。三輪の輪は、韓国語でウル（w o n）と発音し貨幣の単位として使われています。これは中国の貨幣単位の元（g e n）の音ですが、韓国語では（g）の音を発音しません。三輪とは「三元」という意味になるのです。万物のもとである天を元と言います。三元とは「天と地と人」と言われています。和泉へ移動したシャーマンの壺与が神託を受けて三元を守ることになったのです。根子も聖旨もコンスであり「神託や予言などの神語」の事です。

十六 飛鳥の語源は聖旨の事です。

飛鳥と聖旨は共に韓国語でピス（p i s u）と発音します。飛はピ（p i）音で、鳥は隹（尾の短い鳥の総称）スイ（s u i）音ですから吏読字でピスと発音できるのです。『韓国古地名の謎』（光岡雅彦著）に聖日浦とありピイリ（p i i r i）と発音しています。「聖はピ・ヒス・ヒセ・ヒセエと発音する」とありますので、飛鳥と聖旨はピス・ヒス・ヒセ・ヒセエの音を吏読字で表現した

ものと言うことが分かるのです。

聖旨の意味は『三国遺事』駕洛国記にあります。「どこからともなく人の声らしいものが聞えて来たが、その姿は隠したままであった。(神の声) ここには誰がいるか。(九首長) われわれ村の者共が集まっております。(神の声) わたしがいまおるのは何というところじゃ。(九首長) 亀旨と申します。(神の声) 私はこの地に新しい国を造り、その国王となるようにと天上の神から命じられて、今ここへ降ってきたのじゃ。」とあります。そして「一筋の紫色の縄が天から垂れ下がってきて、やがて地面につく光景が望まれた。そこへ行ってみると、紅い縁とりのある布に包んだ金の合子が見つかり、これを開いてみると中から黄金の卵が六つもあらわれ、日輪のように円く輝いていた。」この卵から駕洛国の六王が生まれ、そのうちの一人が首露王なのです。

聖旨は「神語」の意味ですから九首長が聞いた声が聖旨(コンス)なのです。また、韓国語で「空授」と書いても「コンス」と発音します。これは天から授けられた六王の状況の事です。

飛鳥川の上流をさかのぼっていくと、その源流は高取山にあります。高取は韓国語でコスと発音しコンスではありませんが、高の発音はコウで、空の発音は(コウ・クウ)ですからコウの音が共通しています。高の意味は「場所や建物がたかい。たかい所。尊ぶ。」で、空の意味は「地上から見上げる所。うえ。てっぺん。」ですから共通している部分もあります。

渡来人の多くは韓国の人たちです。その昔に蒙古地方から、光明の本源の地をたずねながら東方へ向かってきて、白頭山(今の長白山)に行き着き、その山地の樹林帯を光明神の宿る所と信じたのです。哈爾濱(ハルピン)の近くに扶余国を立て、やがて高句麗や新羅を立ち上げています。それらの国々には樹林神壇を設けて蘇塗と称して祭祀を行ないました。樹林神壇のことを聖樹(コンス)と言っています。渡来人にとって山は神聖な場所だったのです。

高取山を源流とする川に先ずはピス・ヒセ・ヒセエと言う呼称が付き、次に吏読字で「飛鳥」と表記しました。発音は渡来人たちの故郷ハルピンを流れる松花江の名を慕って「アスカ」としたのです。高句麗語で「松」は「アス」と発音しますので、「松花」は「アスカ」となります。飛鳥はヒセエと読んでもアスカとは読まないのです。渡来人たちが遥か遠くの故郷を懐かしく思って付けた呼称なのです。

駕洛国の首露王は亀旨峰に天降って来ました。亀旨の「亀」の発音はキ・キュウ・ク・キン・コンですから、亀旨はクシの他にコンスとも発音が出来ます。聖旨と空授・根子を吏読字で「コンス」と発音する原語だと思われるのです。